



学校だより

8・9月号
横浜市立桜台小学校
令和8年8月27日発行



HP はこちらから

子どもの『主体性』とは ～夏休みに考えたこと～

校長 中村 真弓

今年の夏は大地震や大雨などの災害が各地であり、被災された方々が猛暑の中どう過ごされているか心を痛めて過ごしました。横浜でもゲリラ豪雨や深夜の地震があり、桜台小でも防災面での対応を改めて考えさせられました。残暑が厳しい中を学校生活がスタートしますが、心身の健康や防犯・防災など、多方面からの安心・安全に改めて配慮していきたいと思います。ご協力をよろしくお願いいたします。

夏休み中に教職員は校内・校外で研修の機会がありますが、校長としては「横浜市教育課程研究委員会」の研究協議会の3つの部会に参加し、新しい学習指導要領の動向や授業改善についての研修を受けました。研修は、すべての教科等部会ごとに行われるのですが、共通して各教科等で何回も聞かれたのが、『子ども主体の学び』という言葉です。同じように『主体性』『主体的』という言葉も強調されていると感じました。『主体』という言葉の意味は、例解新国語辞典(第七版)では次のようになっています。

『主体』：自分の意志をもって他にはたらきかけるもの。

『主体性』：はっきりと自分の考えをもって、他人の言動に左右されない態度。

『主体的』：自分で問題意識をもち、積極的に行動できる。

子どもが主体となって、また主体的に学んでいる姿は、先生や大人が敷いたレールからはみ出さないようにしては見ることができません。また、だからといって初めから何でも子ども任せに自由にさせることがよいかというと、それもちがうと思います。学校の学びでは、教師が単元の初めに子どもが興味・関心をもてるように、また自分の考えをもてるように働きかけることが大切になってくるということです。そして、一人ひとりの子どもが「やってみよう」と思えるためには、教師が子どもに寄り添い、様子をよく見極めた投げかけが必要となります。子ども一人ひとりを大切に、授業改善に努めてまいります。学校だけでなく、ご家庭や地域でも、お子さんが自分の力で考えて行動できるような声掛けをしていただけると幸いです。